

# アクティブケア宮崎(認知症対応型共同生活介護事業所)

## 1. 評価結果概要表

作成日 19 年 12 月 26 日

### 【評価実施概要】

事業所番号	1872000409
法人名	社会福祉法人 敬老会
事業所名	アクティブケア宮崎
所在地	丹生郡越前町小曾原33-34 (電話) 0778-32-3777

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井市光陽2丁目3-22		
訪問調査日	平成19年11月1日	評価確定日	平成19年12月26日

【情報提供票より】 ( 19 年 10 月 22 日 事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 4 月 11 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	21 人	常勤 19 人、非常勤 2 人、常勤換算 18.5 人	

### (2)建物概要

建物構造	鉄骨平屋 造り		
	1 階建ての	~	1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	46,500 円	その他の経費(月額)	10,500 + 実費 円	
敷金	有 ( 円)		無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

### (4)利用者の概要 ( 10 月 22 日 現在)

利用者数	17 名	男性 0 名	女性 17 名
要介護1	6	要介護2	8
要介護3	2	要介護4	1
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 83.3 歳	最低 63 歳	最高 94 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 相木病院
---------	-----------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームを運営する社会福祉法人はこの地にゆかりのある病院グループに属し、隣接する特別養護老人ホームに続いて開設され、今年で3年が経つ。ホームは、地元集落の中心に位置し、小高い山々に囲まれ、四季の移り変わりが、身近に感じられる。建物は平屋建てながら、広い中庭を有し、各居室は中庭に面してウッドデッキがあり、入居者一人ひとりが自由に過ごせるように配慮されている。居室内にはなじみの品が持ち込まれており居心地の良い空間となっている。職員は開設以来の理念をもとに、自分たちの言葉で自分たちが望む介護のあり方を9項目にまとめて、実践している。また、法人理事長の思いもあり、地域との関わりが大切にされ、散歩時に畑仕事の人と挨拶を交わしたり、作物の差し入れ等もあり地域との交流も積極的に進められている。食堂からは村が一望でき、入居者と職員が敷地周辺の畑で作った野菜が食卓を飾り、近所の金毘羅祭りの話題でゆったりと時間が流れる様子から、我が家のように居心地の良い場所、温もりのある団欒がうかがえた。さらに、職員の資質向上に法人として取り組み、計画的な研修参加のほか、資格取得にも一部費用の補助制度が設けられている。職員が強調する「何でも言えるチームワークの良さ」がさらに発揮されることで、入居者にとって望ましいケアの実現が期待できるホームである。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を受けて、門から玄関までの中庭に季節の花が整備されるなど改善された点もあるが、まだ記録における管理者を含めた確認印の漏れが一部あり、早急に改善されることが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員が参加するミーティングにおいて項目ごとの点検と改善策の検討がなされている。これらの取り組みから浮かび上がった課題を一つひとつ改善し、より質の高いホームを目指されることを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議の議事録からも積極的な意見交換が読み取れる。また、委員からのボランティアの積極的な活用等についての意見も真摯に受け止め、対応について前向きに検討している。また、施設側からも緊急時の協力体制づくりに向けた働きかけがなされている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	家族への報告としては、月1回の「ホーム便り」を発行するとともに、看護記録や金銭管理の報告、職員の異動等を知らせている。また、面会や電話等で個別にも報告がなされている。家族からの意見等については、運営推進会議等で積極的に吸い上げているほか、玄関に意見箱が設置されているが、ホーム以外にも苦情の窓口・機関があることを家族に周知し、苦情を申し出やすい環境づくりに取り組まれることが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	法人理事長の思いが反映され、当初から地域密着を基本とした運営が行われている。施設長をはじめ、職員の地域の会合への参加意欲も高く、入居者も日常的に散歩や買い物に出かけるなど、地域の理解と支援を受けている。また、緊急時の協力体制も運営推進会議等で依頼がなされている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
		<b>理念に基づく運営 1 理念の共有</b>			
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設以来の理念も踏まえつつ、「より介護の実態に即した理念を掲げたい」との職員の声から、自分たちの望む介護を自分たちの言葉で9項目にまとめ、玄関や各セクションに掲示している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員各自が毎日、理念を確認しながら、日々のふれあいの中で、個を尊重する関わりを持っている。		
		<b>2 地域との支えあい</b>			
3	5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームが地区の中心に位置しているため、地域のお祭りや近隣の祭事にも気軽に参加している。最近では婚礼のお輿入れ行列にも参加し、紅白饅頭をいただいたということもあった。		今後、地域ボランティアとの関わりを強化することを検討されているので、その取り組みにも期待したい。
		<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
4	7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が評価に前向きに取り組んでいる。また、前回の評価結果を踏まえた改善にも積極的に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事録からも積極的な意見交換が読み取れる。また、委員からのボランティアの積極的な活用等についての意見も真摯に受け止め、対応について前向きに検討している。		
6	9	市町村との連携  事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議での意見交換や協議がなされており、地域の実情や課題も共有しながら、ホームとして通所施設の申請もしている。		課題解決のためには町の協力が不可欠なため、今後、これまで以上に積極的に実情についての理解や相談の機会が深まるよう、より一層の連携を期待したい。
		<b>4 理念を実践するための体制</b>			
7	14	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回の「ホーム便り」を発行するとともに、看護記録や金銭管理報告書、職員の異動を知らせている。また、面会や電話等で個別にも報告がなされている。		看護記録のコピーがそのまま家族に送付されているので、プライバシー保護の観点からも、ポイントを整理し、適切に伝えることが望ましい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で積極的に意見を吸い上げているほか、玄関に意見箱が設置されている。		ホーム以外にも苦情の窓口・機関があることを家族に周知し、苦情を申し出やすい環境づくりに取り組まれることが望まれる。
9	18	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設してまだ3年ということもあり、法人グループ内での異動は少ない。ユニット間で職員の異動があっても、職員相互の行き来や交流があるため、入居者への影響は最小限に抑えられている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内や外部研修を計画的に受講している。また、職員が資格を取得する際にも資格援助制度(一部費用の助成)が設けられている。現在、スキルアップシート等の検討もなされている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム連絡協議会に加入しているが、研修への参加や情報共有や交流の働きかけとしては十分ではない。		連絡会の研修等にも積極的に参加して、同業者との交流により情報の収集や相互交流を深め、ネットワークを広げられることを期待したい。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には本人宅に訪問し、本人や家族に十分説明を行うほか、入居に先立って見学や1日体験を行っている。		
<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食卓を囲みながら、職員と入居者が金毘羅祭りの今昔に、思いをはせながら話を弾ませる様子からも入居者と職員の良好な関係性がうかがえた。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は傾聴や見守り、受容の姿勢で入居者の思いを引き出し、良好なコミュニケーションが図られている。1人暮らしで、帰宅要求の強い入居者等の希望を受け入れ、自宅で過ごす時間を設けるなど、一人ひとりを尊重した関わりをもっている。		
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者本人に聞いたり、入居時や面会時に家族の意見を聞き、計画に反映している。職員全体のカンファレンスで介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画には2週ごと、1月ごとの評価チェック欄が設けられているが、一部使用されていないものも見受けられた。		個別の経過記録を活用し、計画の実施評価を適切に行うことが望まれる。
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常的な外出支援もなされているほか、事業所に設けられている茶室を活用して地域の園児との交流等を図っている。また、法人グループの連携により急変時や終末期の支援にも柔軟に対応している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて、入居者個々のかかりつけ医への受診支援がなされている。また、緊急時には法人グループ内の医療機関での受診対応がなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	基本的に共同生活が困難とみなされた段階で退去、もしくは関連施設への転居に向けた支援を行うとの方針となっている。		法人としての明確な方針があるが、重度化した場合や終末期の家族の不安が軽減されるよう取り組まれるとともに、ホームでの終末期の受け入れについても、将来的に検討されることを期待したい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、声かけも穏やかであり、入居者の個を尊重した関わりを大切に接している。記録等の個人情報は事務所に適切に保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、その人のペースを尊重し、入居者がしたいこと、望むことを引き出すことに徹しながら、行動を抑制せずに見守っている様子がうかがえた。		
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	訪問時の食卓には、すき焼き鍋を囲んで入居者が職員と共に好みの品を取り寄せ、「美味しい」と口にする光景も見られ、食事を楽しんでいる様子がうかがえた。また、できる人には片付け等の役割を担ってもらっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	檜風呂を使用し、基本的に夏季は隔日、冬季は2日おきで入浴日が決められているが、毎日の入浴希望にも対応している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ちぎり絵の得意な人のために作品コーナーを設けて展示するなど趣味を活かす支援をしたり、新聞の受け取りやカーテンの開閉、草花の水遣り、洗濯物たたみなど、役割をもってもらうよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	隣接する法人内の特別養護老人ホームの行事に参加したり、近隣の散歩や神社参拝に出かけている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の施錠はせず玄関は開放している。居室に関しても施錠はせず、入居者の自由となっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導のもと、非難訓練がなされている。また、災害時に必要な物品の備蓄も法人全体で取り組まれている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量のチェックはされているが、午前、午後の水分補給について、必要な水分量が摂取されているかどうかのチェックが十分ではない。		1日の水分摂取量について再度見直し、かつ、記録の充実が望まれる。
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当地は越前焼発祥の地として陶芸が盛んなため、ホーム内でも随所に陶器の装飾が施されている。共有空間は自然採光を十分に取り込み、窓からは小高い山や田園風景が一望でき、五感で四季を感じることができる居心地の良い空間となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は馴染みの家具や好みの品が持ち込まれており、整理整頓がなされている。ウッドデッキのテラスも、思い思いに活用でき、入居者が過ごしやすいように工夫されている。		

■は、重点項目。

アクティブケア宮崎(2ユニット共通)

自己評価票

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b> <b>1 理念の共有</b>				
1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で自分が望む介護を出し合い、その中から絞りこみ、ホーム独自のわかりやすく具体的な理念をつくりあげている。		職員全員で自分が望む介護を出し合い、その中から絞りこみ、ホーム独自のわかりやすく具体的な理念をつくりあげている。
2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入職時研修、日々の業務の中や申し送り、ミーティングへの参加、ホーム内での掲示、書類の確認により、全体かつ個別的対応により適宜話し合いを実施し、共有している		入職時研修、日々の業務の中や申し送り、ミーティングへの参加、ホーム内での掲示、書類の確認により、全体かつ個別的対応により適宜話し合いを実施し、共有していく。
3	家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	ご家族には入居時の契約時に説明しており、日常的な取り組みとしてはホーム内に掲示している。また地域においては、広報に掲載して地域に配布している。		ご家族には入居時の契約時に説明していき、日常的な取り組みとしてはホーム内に掲示する。また地域においては、広報に掲載して地域に配布する。
<b>2 地域との支えあい</b>				
4	隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の方が収穫された野菜やお花などを持ってきてくれたりしている。建物と隣接している田んぼの方が仕事されているときなどは、入居者と気軽に挨拶を交わしている。道路沿いの畑や中庭の花壇、庭木など近所の方にも楽しんでもらっている。		近隣の方が収穫された野菜やお花などを持ってきてくれたりしている。建物と隣接している田んぼの方が仕事されているときなどは、入居者と気軽に挨拶を交わしている。道路沿いの畑や中庭の花壇、庭木など近所の方にも楽しんでもらっている。
5	地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りなどに入居者とともに参加している。		事業所として出来ることを検討し地元の人々との交流を深めていきたい
6	事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の通院等に役立つように、福祉有償運送事業を実施している。		地域のふれあいサロンとしての場の提供や介護相談、高齢者の介護予防の情報の発信地の役割を担っていきたい。
<b>3 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		外部評価の意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいく。
8	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中でボランティアの受け入れの意見をもとに、ボランティアを受け入れている。		運営推進会議を活かした取り組みをしていく。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市町村の担当者と協議したり、報告や連絡、相談など適宜行っている。		市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいく。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の研修に参加している。		権利擁護に関する制度を個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援していく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の防止について、徹底している。		虐待の防止について、徹底していく。
<b>4 理念を实践するための体制</b>				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明を行い、理解・納得を図っている。		契約に関する説明を行い、理解・納得を図っていく。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設け、意見苦情等をいつでも書き込まれるようにしている。また運営推進会議や家族交流会、面会時などで個別に対応し、意見、不満、要望、苦情がないか尋ねている。		玄関に意見箱を設け、意見苦情等をいつでも書き込まれるようにしている。また運営推進会議や家族交流会、面会時などで個別に対応し、意見、不満、要望、苦情がないか尋ねている。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回家族にホームの広報や看護記録、預かり金収支明細を送付し、健康状態、職員の異動、金銭管理の状況を知らせている。また必要に応じ、面会時や電話で連絡・報告している。		月1回家族にホームの広報や看護記録、預かり金収支明細を送付し、健康状態、職員の異動、金銭管理の状況を知らせている。また必要に応じ、面会時や電話で連絡・報告している。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設け、意見苦情等をいつでも書き込まれるようにしている。また運営推進会議や家族交流会、面会時などで個別に対応し、意見、不満、要望、苦情がないか尋ねている。		玄関に意見箱を設け、意見苦情等をいつでも書き込まれるようにしている。また運営推進会議や家族交流会、面会時などで個別に対応し、意見、不満、要望、苦情がないか尋ねている。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングの場で必要な情報を伝え、同時に活発な意見を求め協議している。また日々の業務の中での意見や提案は、日々の申し送りノートに記入できるようにして、職員全員で共有している。		月1回のミーティングの場で必要な情報を伝え、同時に活発な意見を求め協議している。また日々の業務の中での意見や提案は、日々の申し送りノートに記入できるようにして、職員全員で共有している。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者、家族の要望に対応できるように、計画的に勤務日、勤務時間を調整している。		入居者、家族の要望に対応できるように、計画的に勤務日、勤務時間を調整している。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の交流を行ったりお互いに行き来し、職員の異動等による影響への配慮をしている。		職員の異動等による影響への配慮をしていく。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内、外部の研修への受講を促すとともに、その資料の共有や報告を行っている。		法人内、外部の研修への受講を促すとともに、その資料の共有や報告を行う。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			同業者との交流を通じた向上を目指す。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	年1回グループ全体での忘年会や法人全体での慰安旅行を実施している。またホームの職員同士で食事をやっている。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況に応じて、報奨金制度を設け、賞与時に支給している。		職員個々の努力や実績、勤務状況に応じて、報奨金制度を設け、賞与時に支給している。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	関わる時間を多く持ち、本人が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴き受けとめている。		関わる時間を多く持ち、本人が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴き受けとめる努力をしていく。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族が困っていること、不安なこと、求めていること等をこまめに連絡を取り、受けとめている。		家族が困っていること、不安なこと、求めていること等をこまめに連絡を取り、受けとめていく。
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の見極めと支援に努めている。		初期対応の見極めと支援に努めていく。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や1日体験を行っている。		見学や1日体験を行っていく。
<b>2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人とともに過ごし喜怒哀楽をともにし、支えあう関係を築いている。		本人とともに過ごし喜怒哀楽をともにし、支えあう関係を築いていく。



項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族と喜怒哀楽をともにし、支えあう関係を築いている。		家族と喜怒哀楽をともにし、支えあう関係を築いていく。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族のよりよい関係に向けた支援を行っている。		本人と家族のよりよい関係に向けた支援を行っていく。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場との関係維持の支援をしている。		馴染みの人や場との関係維持の支援をしていく。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者の個性などを把握し、落ち着いた本人の望む対人関係が築けるよう働きかけをしている。		入居者の個性などを把握し、落ち着いた本人の望む対人関係が築けるよう働きかけをしていく。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	関係を断ち切らない取り組みをしている。		関係を断ち切らない取り組みをしていく。
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>		<b>1 一人ひとりの把握</b>		
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活暦を入居者、家族から聞き取り、生活特性(生活暦、ライフスタイル等)、入居者が求めていることの把握に努めている。		生活暦を入居者、家族から聞き取り、生活特性(生活暦、ライフスタイル等)、入居者が求めていることの把握に努めていく。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活暦を入居者、家族から聞き取り、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		生活暦を入居者、家族から聞き取り、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めていく。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	24時間の関わりの中から、一人ひとりの状態像、生活特性(生活暦、ライフスタイル等)、入居者の現状の把握に努めている。		24時間の関わりの中から、一人ひとりの状態像、生活特性(生活暦、ライフスタイル等)、入居者の現状の把握に努めていく。
<b>2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人に意見を聞いたり、入居時や面会時に家族に意見を求め、介護計画に反映している。		本人に意見を聞いたり、入居時や面会時に家族に意見を求め、介護計画に反映していく。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即した介護計画の見直しを行っている。		現状に即した介護計画の見直しを行っていく。
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録や生活記録を作成し、毎日継続して記録している。その記録をもとにミーティング等の場で協議し、介護計画の見直しに活かしている。		個別の介護記録や生活記録を作成し、毎日継続して記録していく。その記録をもとにミーティング等の場で協議し、介護計画の見直しに活かしていく。
<b>3 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の多機能性を活かした支援を行っている。		事業所の多機能性を活かした支援を行っていく。
<b>4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	必要に応じて情報交換をしている。		地域資源との協働に取り組んでいく。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人や家族の希望、必要に応じて、サービス事業者と話し合い、ヘルパー利用の支援をしている。		本人や家族の希望、必要に応じて、サービス事業者と話し合い、ヘルパー利用の支援をしている。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて情報交換をしている。		地域包括支援センターとの協働していく。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要に応じて受診支援している。		必要に応じて受診支援していく。
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて認知症専門病院への受診を行っている。		必要に応じて認知症専門病院への受診を行っている。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	隣接している同法人内の特養の看護師と相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援を行っている。		隣接している同法人内の特養の看護師と相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援を行う。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	母体医療機関や協力医療機関と連携している。		母体医療機関や協力医療機関と連携していく。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期に向けた方針を共有している。</p>		<p>重度化や終末期に向けた方針を共有していく。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化や終末期に向けたチームで支援している。</p>		<p>重度化や終末期に向けたチームで支援していく。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>本人や家族の了承のもとに必要な情報提供をしたり、ケア関係者間での話し合いの場で情報交換をしている。</p>		<p>本人や家族の了承のもとに必要な情報提供をしたり、ケア関係者間での話し合いの場で情報交換をしていく。</p>
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>		<p><b>1 その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重</b></p>		
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーの確保の徹底に努めている。</p>		<p>プライバシーの確保の徹底に努めていく。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり、希望を表したりすることを大切に、常に職員から問いかけし気持ちや希望を引き出すようにしている。</p>		<p>職員は、入居者一人ひとりが自分で決めたり、希望を表したりすることを大切に、常に職員から問いかけし気持ちや希望を引き出すようにしていく。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>家族の方からのお話や入居者との会話の中での生活暦や生活上の希望の情報を把握し希望に添えるよう支援している。</p>		<p>家族の方からのお話や入居者との会話の中での生活暦や生活上の希望の情報を把握し希望に添えるよう支援していく。</p>
<p><b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b></p>				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>入居者一人ひとりの個性を大切に本人の要望に合わせて髪形や服装、おしゃれができるよう支援している。なじみの美容院の利用を希望される入居者には、予約や送迎の支援をしている。また隣接している施設で行っている出張理容を利用している</p>		<p>入居者一人ひとりの個性を大切に本人の要望に合わせて髪形や服装、おしゃれができるよう支援していく。なじみの美容院の利用を希望される入居者には、予約や送迎の支援をしていく。また隣接している施設で行っている出張理容を利用していく</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんでいる。また個々に合わせて一緒に準備や片付けの手伝いができるよう支援している。</p>		<p>職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しんでいる。また個々に合わせて一緒に準備や片付けの手伝いができるよう支援していく。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の嗜好の支援を行っている。</p>		<p>本人の嗜好の支援を行っていく。</p>

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックにより日々の排泄状況を把握し、声掛けや誘導等でトイレでの排泄自立に向けた支援を心掛けている。		排泄チェックにより日々の排泄状況を把握し、声掛けや誘導等でトイレでの排泄自立に向けた支援を心掛けている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	原則夏季は1日おき、冬季は2日おきに入浴しているが、毎日の入浴を希望される入居者などその日のタイミングに合わせている。清潔保持、事故防止を前提にして、無理な誘導や不要な介助はさけ、個々の希望に副った入浴が出来るよう支援している。		原則夏季は1日おき、冬季は2日おきに入浴しているが、毎日の入浴を希望される入居者などその日のタイミングに合わせている。清潔保持、事故防止を前提にして、無理な誘導や不要な介助はさけ、個々の希望に副った入浴が出来るよう支援している。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	体操、日光浴、趣味の日中活動などを行い、入居者の生活リズムを整えるような取り組みをしている。また寝具の天日干しを出来るだけ行い、安眠を支援している。		体操、日光浴、趣味の日中活動などを行い、入居者の生活リズムを整えるような取り組みをしている。また寝具の天日干しを出来るだけ行い、安眠を支援している。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	新聞受け取りやカーテンの開閉、食器洗い、洗濯たたみ、草取り、花壇やプランターの草花の水遣りなど無理のないように、役割として認識してもらえるように支援している。		新聞受け取りやカーテンの開閉、食器洗い、洗濯たたみ、草取り、花壇やプランターの草花の水遣りなど無理のないように、役割として認識してもらえるように支援している。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持を希望される入居者は、小遣い程度を自己管理している。それ以外入居者には、家族からの預かり金により買い物等金銭が必要ときに支援している。		金銭の所持を希望される入居者は、小遣い程度を自己管理している。それ以外入居者には、家族からの預かり金により買い物等金銭が必要ときに支援している。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に副った近隣の散歩や外出、母体施設の特養が行う行事に参加できるよう支援している。		入居者の希望に副った近隣の散歩や外出、母体施設の特養が行う行事に参加できるよう支援している。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月行事での外出や地域の催し物に参加できるように計画している。		毎月行事での外出や地域の催し物に参加できるように計画している。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの要望は少ないが、各居室には電話やパソコンのインターネット利用が可能である。また携帯電話を利用されている入居者に支援している。		入居者からの要望は少ないが、各居室には電話やパソコンのインターネット利用が可能である。また携帯電話を利用されている入居者に支援している。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の際には、自由に気軽にのんびりと過ごしていただけるよう、和室などを利用してもらっている。		訪問の際には、自由に気軽にのんびりと過ごしていただけるよう、和室などを利用してもらっている。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止委員会の設置やミーティングや研修、資料等を通じて身体拘束を行わないということを全ての職員が正しく認識しており身体拘束のないケアを実践している。		身体拘束禁止委員会の設置やミーティングや研修、資料等を通じて身体拘束を行わないということを全ての職員が正しく認識し、り身体拘束のないケアを実践していく。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中(7:00~21:00)は玄関に施錠せず、開放している。居室は全く施錠せず、入居者自身で行っている。		日中(7:00~21:00)は玄関に施錠せず、開放する。居室は全く施錠せず、入居者自身で行っていただく。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら安全確認を行っている。		プライバシーに配慮しながら安全確認を行う。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態に応じて、混乱や危険を防ぐため保管・管理している。		一人ひとりの状態に応じて、混乱や危険を防ぐため保管・管理していく。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員は業務の中で起こったことに対してヒヤリハットを記録する。その中で事故につながる恐れがあることを職員全員で認識、共有して事故防止に取り組んでいる。		職員は業務の中で起こったことに対してヒヤリハットを記録する。その中で事故につながる恐れがあることを職員全員で認識、共有して事故防止に取り組んでいく。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年2回以上院内研修を行って、急変や事故発生時に備えている。またマニュアルの作成や緊急連絡先については目に付く場所に掲示している。、		年2回以上院内研修を行って、急変や事故発生時に備える。またマニュアルの作成や緊急連絡先については目に付く場所に掲示する。、
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回以上消防署のしどうにより避難訓練を行って、災害発生時に備えている。また区長さんを通じて地域の人々の協力を依頼している。		年2回以上避難訓練を行い、災害発生時に備えていく。また区長さんを通じて地域の人々の協力を依頼する。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりに起こりえるリスクについて適宜家族に説明している。		一人ひとりに起こりえるリスクについて適宜家族に説明していく。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面への支援</b>				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	原則1日1回バイタルチェックを行い継続した健康管理として状態変化の早期発見と対応に努めている。		原則1日1回バイタルチェックを行い継続した健康管理として状態変化の早期発見と対応に努めていく。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の看護記録表に薬事情報を記載し、全ての職員が把握できるようにしている。服薬の変更追加の場合は申し送りするなど周知徹底している。		入居者の看護記録表に薬事情報を記載し、全ての職員が把握できるようにしている。服薬の変更追加の場合は申し送りするなど周知徹底していく。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェックにより日々の排泄状況を把握し、個々に合った飲食物の摂取や排便誘導、腹部マッサージを行っている。		排泄チェックにより日々の排泄状況を把握し、個々に合った飲食物の摂取や排便誘導、腹部マッサージを行う。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々に応じた口腔ケアの機会を起床時、毎食後、就寝時実施している。また必要に応じて歯科受診の支援をしている。		個々に応じた口腔ケアの機会を起床時、毎食後、就寝時実施していく。また必要に応じて歯科受診の支援をしていく。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分摂取の状況を継続的に記録している。		食べる量や水分摂取の状況を継続的に記録していく。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事やおやつのはきは、手洗いや消毒を必ず行い、感染症の予防を行っている。		食事やおやつのはきは、手洗いや消毒を必ず行い、感染症の予防を行っていく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	それぞれの業務の中で作業終了後消毒を行っており、衛生保持に努めている。食材に関しては、火・金曜日に買出しに行き新鮮なものを使用している。		それぞれの業務の中で作業終了後消毒を行っており、衛生保持に努めていく。食材に関しては、火・金曜日に買出しに行き新鮮なものを使用していく。
<b>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	道路沿いに畑を設けたり、日中は格子戸を常時開けて気軽に入れるようしている。また玄関へと続く中庭には草花や庭木があり、季節感を味わえて楽しめることができる。		道路沿いに畑を設けたり、日中は格子戸を常時開けて気軽に入れるようしている。また玄関へと続く中庭には草花や庭木があり、季節感を味わえて楽しめることができる。
81	居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が自由に使える和室のサブリビングや居間にソファや炬燵をおいている。また浴室には、檜の浴槽や居間の天井の木、照明の明るさ、壁や床の色合いに落ち着いた家庭的な空間づくりをしている。		入居者が自由に使える和室のサブリビングや居間にソファや炬燵をおいている。また浴室には、檜の浴槽や居間の天井の木、照明の明るさ、壁や床の色合いに落ち着いた家庭的な空間づくりをしている。
82	共有空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が自由に使える和室のサブリビングや居間にソファや炬燵をおいている。		入居者が自由に使える和室のサブリビングや居間にソファや炬燵をおいている。
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者に使い慣れた生活用品を自由に持ち込んでいただき思い出深い装飾品、写真などを飾り、安心して過ごせるよう工夫している。		入居者に使い慣れた生活用品を自由に持ち込んでいただき思い出深い装飾品、写真などを飾り、安心して過ごせるよう工夫していく。
84	換気・空調の配慮 気のなるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室に空調、24時間換気が設置してあり、個々に対応できている。居間食堂には床暖房を敷設して入居者の好みを尊重しながら温度調節を適正に行っている。また時間によって自然換気を実施している。		各居室に空調、24時間換気が設置してあり、個々に対応していく。居間食堂には床暖房を敷設して入居者の好みを尊重しながら温度調節を適正に行っていく。また時間によって自然換気を実施していく。

項目番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレの要所に手すりを設置している。また食堂のテーブル、椅子は一人ひとりに合わせた高さになっている。		廊下、浴室、トイレの要所に手すりを設置している。また食堂のテーブル、椅子は一人ひとりに合わせた高さになっている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	浴室やトイレは、入居者の目線に合わせて認識しやすい表示にしている。		浴室やトイレは、入居者の目線に合わせて認識しやすい表示にしている。
87	建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	四季を感じられる中庭の風景や畑、ウッドデッキを利用して戸外での活動ができるようにしている。(畑仕事、ウッドデッキでの食事、日向ぼっこ)		四季を感じられる中庭の風景や畑、ウッドデッキを利用して戸外での活動ができるようにしている。(畑仕事、ウッドデッキでの食事、日向ぼっこ)
項目番号	項目	<b>取り組みの成果</b> (該当する箇所を 印で囲むこと)		
<b>サービスの成果に関する項目</b>				
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない		
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない		
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない		

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

海岸に近いことや農家の多いことなどから地場産出の新鮮な魚や野菜の食材にめぐまれているのと、調理上手な職員が多いことから毎日の食事の献立も豊富で入居者の方やご家族にとっても好評です。またこれから越前かのに季節になりますが、毎年この季節になると朝獲れのかにをホームでゆがいていただいています。